

マーケット・アイ (99 / 5)

短期金融市場の怪

短期金融市場で看過できないモラルハザードが生じている。今般綻処理されることになった大阪の幸福銀行がここまで生延びた(=資金繰りがついた)のは、短期金融市場でお金を調達することが出来たからだ。

誰がお金を出したかと云えば、市場に参加しているプロの金融機関である。何故破綻寸前の銀行にお金を出すかと云えば、出した資金が預金保険機構によって「護られる」からだ。そうして高金利(!?)をとる。足元を見たプロの行動を何故護るのかという正論は、金融システム守護という錦の御旗の前に掻き消される。

勝ちに不思議の勝ちあり

阪神タイガース野村監督の語録のなかに「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉があるそうだが、最近銀行から巨額の債権放棄を受けて一息ついたゼネコンの株主達は「不思議な勝ち」を経験している。第一、減資などの株主責任を問われていない。第二、株価が値上がりして資産が増加した。これは株主の不思議な勝ちではないか?

資本主義下の株式会社の株主が、債権者よりも優遇されるという不可解な決定が、それでも平気で罷り通ってしまっただ議論を起こさない不思議。あの夏目漱石が云ったように無理が通って道理が引っ込んでしまうのは、今の世の中も変わらないということか。

大阪銀行・近畿銀行の合併

先月17日、大阪銀行と近畿銀行が合併することを発表した。地域銀行への傾斜を強めている大和銀行主導の動きで合併そのものは当然の流れと思われるが、地銀(大阪銀行)と第二地銀(近畿銀行)という組み合わせが目をついた。今は同じく普通銀行とは云え、近畿銀行は旧相互銀行で企業体質や企業風土がかなり違うと見られるからだ。

企業風土やその体質にこだわってられない緊迫した状況が今回の合併を促したと判断すべきであるが、こうした業態を超えた合併は未だ始まったばかりである。

パソコンバンキング、低価格化進展

ネット時代が到来しようとしているのに、価

格が高い上に使い勝手の悪いパソコンバンキングが横行していたが、いよいよ本格的なネットバンキングが始まりそうだ。

三和銀行は、毎月1000円で「振込み」「入出金明細の出力」が可能なパソコンバンキングを始める。企業は銀行に行かなくても振込・振替・残高照会・入出金明細の出力が出来るようになる。振込手数料も100円引となる。

FAXで単に振込案内するだけで毎月1000円(私のこのFAXレポートと同額!)取り、単なる振込にも高額の手数料をとる現行のシステムはかねてより疑問に思っていた。三和銀の今回のサービス拡充が起爆剤となって、パソコンバンキングの低価格化が進展して欲しい。

地域金融機関でも、フルバンキング見直し

都市銀行で始まった店舗形態の見直し(個人・法人等全ての顧客を対象とするフルバンキング体制を変える)が地域金融機関(地銀や信金)まで広がって来た。

その形態は店舗統合であったり個人特化店への衣更えであったり色々あるが、全店で全ての業務を行う為に要するコストを削減することがその狙いである。

あなたの会社の取引店舗から支店長がやって来て、法人業務を止めますから取引を別の店舗に移管しますと云ってくる、そんな光景が珍しくなくなる日が近づいている。

ダブル・ギアリング

迂回融資などと言うと一昔前の話のようにも思えるが、金融監督庁が金融機関相互の迂回融資規制強化に動き出した。

不良債権償却等で自己資本不足に陥った銀行などが、それぞれの関連会社や親密企業に融資し相互に資本増強を図る手法(ダブル・ギアリングと呼ばれる)は、あの幸福銀行や東京相和銀行が採用してきた手法で見せ掛けの資本増強である。

こうした手法を本年4月に遡って規制する監督庁の動きは、むしろ遅すぎる動きであった。

金融監督庁、生保検査に

先月27日、金融監督庁はいよいよ生保検査に乗出した。同庁による初の検査で生保各社は身構えている様子。銀行に劣らず生保も大変だろ。